

第 6 章 地域住民のニーズ把握

公共交通機関を主に利用すると想定される市内の高齢者や高校生、現在コミュニティバスを利用されている方々を対象にアンケート調査を行いました。

表 22 ニーズ把握に関する調査一覧

調査種別	住民アンケート	バス利用者満足度調査	高校生アンケート	コミュニティバス運営協議会
調査実施対象	65 歳以上の市民 (1,000 名)	コミュニティバス利用者	三重総合校生徒	住民等
実施期間	令和 3 年 11 月	令和 3 年 12 月	令和 3 年 6 月	令和 3 年 11 月、12 月
意見聴取方法	65 歳以上の対象者に郵送によるアンケート調査を実施。 この他、市報に QR コードを掲載し全年代に対し、web による調査を実施	車内アンケート調査を実施	校内でアンケート調査を実施	ワークショップ形式で実施
目的	本市における地域住民の外出状況や公共交通の利用状況を明らかにするため。	コミュニティバスをよりよく運行するため。 (毎年 12 月～1 月に実施)	公共交通の利便性向上のため、高校生の通学時等の移動手段の利用状況や公共交通での通学の可能性について調査検討するため。	コミュニティバスや公共交通について、対話形式で課題や今後の方向性を明らかにするため。
回答者数	573 件	53 件	346 件	—

6-1. 住民アンケート

6-1-1 回答者属性

(1) 回答方法・年齢構成

コミュニティバスの主な利用者層からの意見集約を目的に、市内に居住する 65 歳以上の方 1,000 人を対象に郵送によるアンケート調査を実施しました。この他、市報に QR コードを掲載し全年代に対し、web による調査を実施しました。

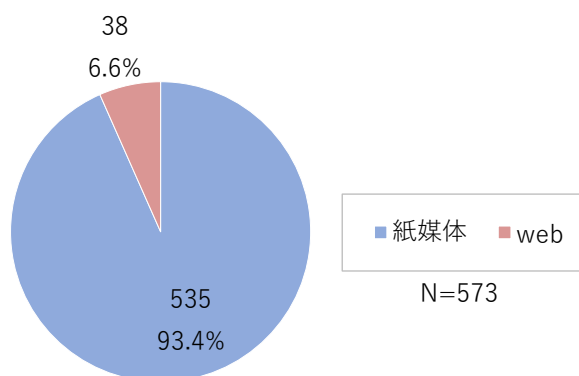


図 40 回答方法

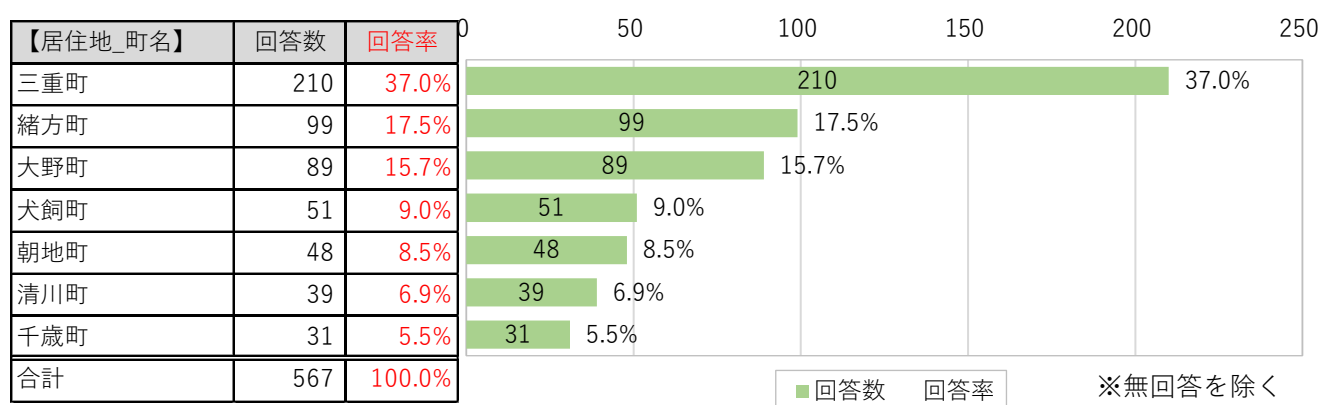


図 41 年齢構成

(2) 運転免許の有無と種別

運転免許証を持った方が約 8 割となっています。また、普通自動車以外の免許証をお持ちの方の割合が少なくなっています。

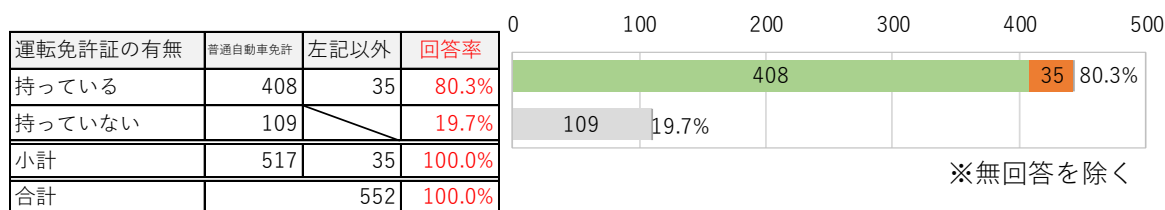


図 42 免許の保有有無

6-1-2 日常的な外出目的と目的地などについて

(1) 主な外出目的

外出目的としては、買い物や通院といったものが多く上げられました。免許証を持った調査対象者が多かったこともあり、娯楽やイベント、通勤が主な外出目的としてあげられました。

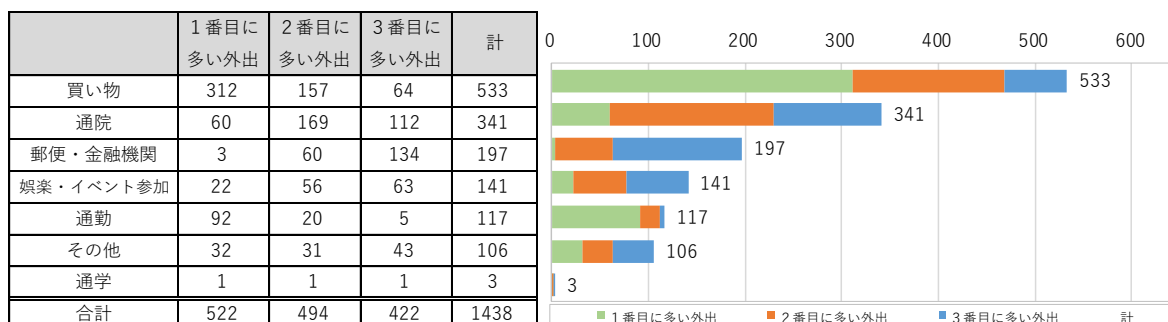


図 43 外出目的

(2) 主な外出先

主な外出先として、三重町に外出する傾向が高く、次いで緒方町、大分市の順に回答順が多い結果となっています。

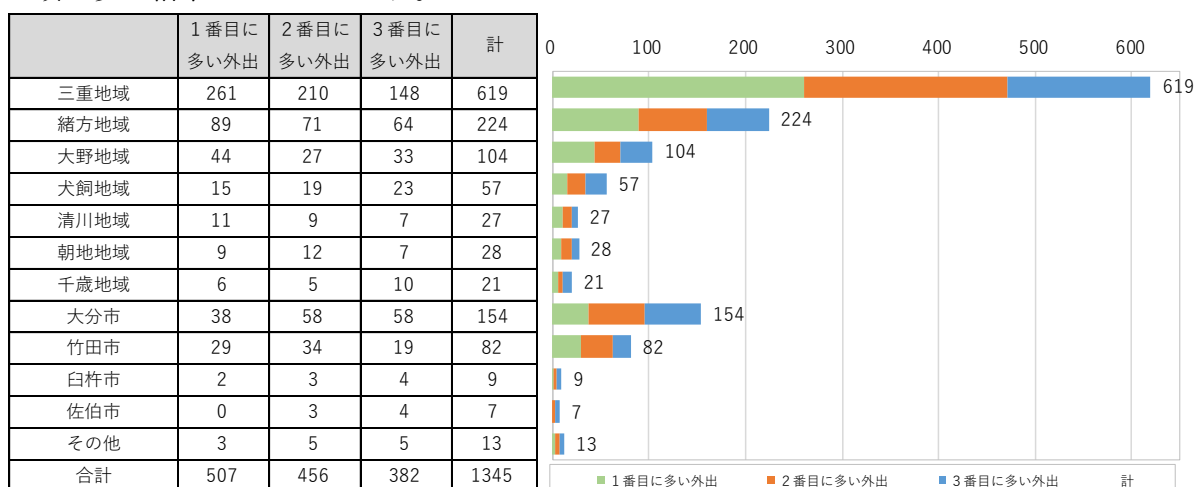


図 44 外出先

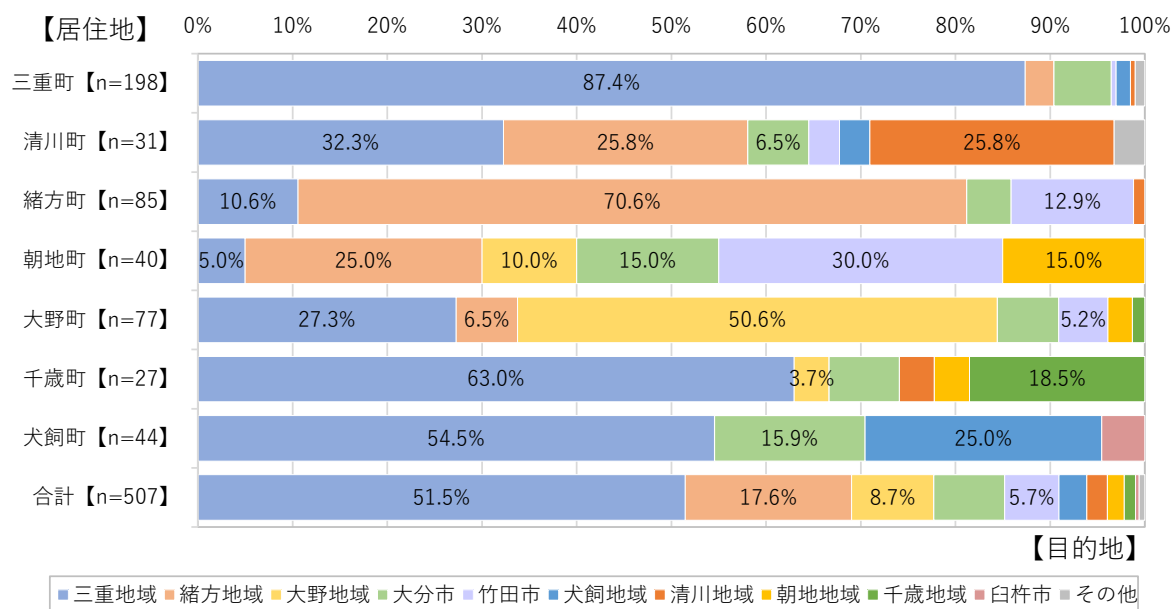
(3) 地域別の外出先

豊後大野市全体としては約半数の方の目的地が三重町となっています。

三重町、緒方町、大野町については、地域内の移動が多い傾向にあります。

清川町、朝地町については、目的地にばらつきがみられる傾向にあります。

千歳町、犬飼町は目的地の半数以上が三重町となっています。

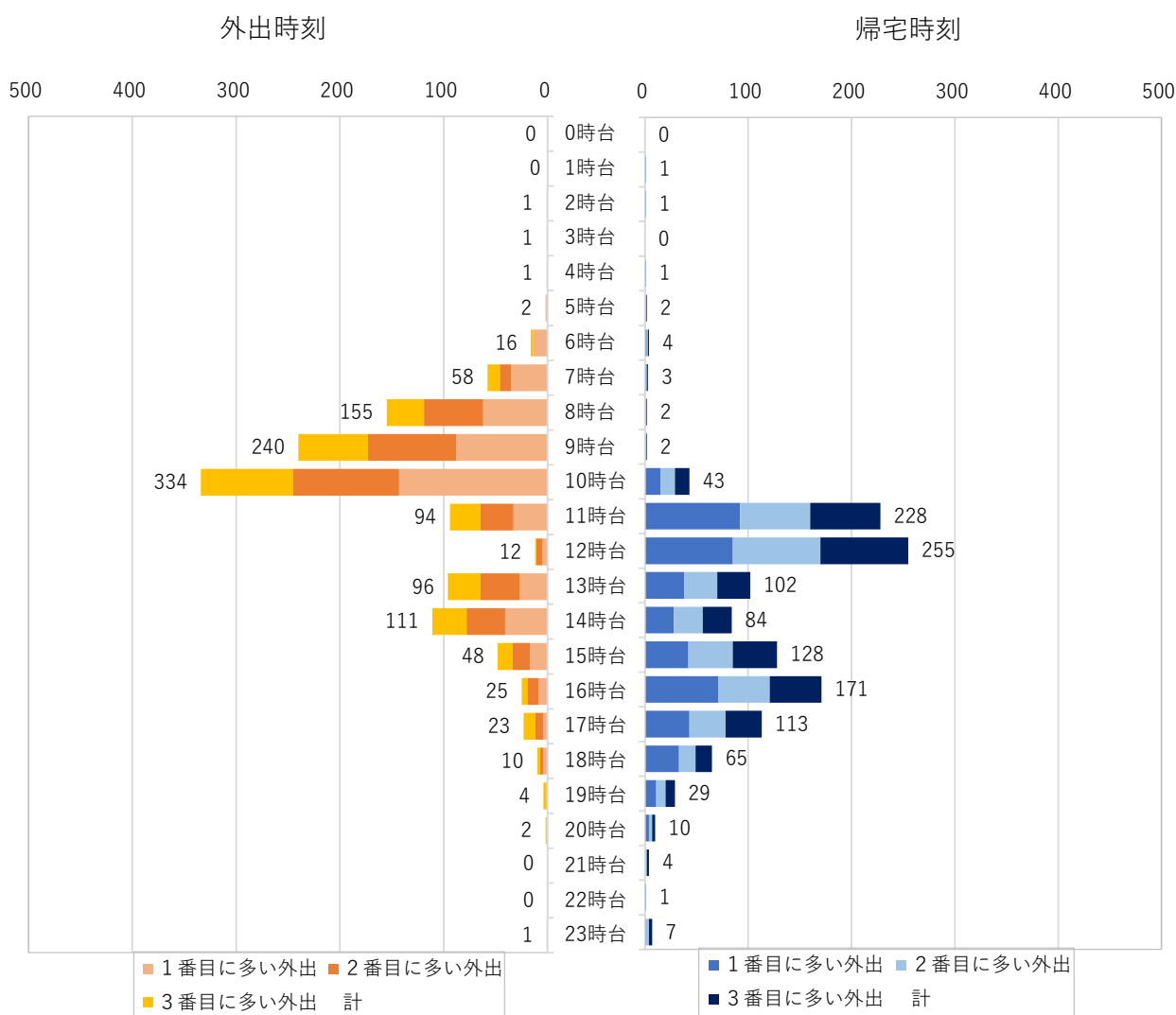


※無回答を除く

図 45 居住地域別の外出先

(4) 外出時間と帰宅時間

外出時間については、午前中に出かけ、午前中に用事を済ませ帰宅する方が多いものの、帰宅時間が13時台から19時台までと幅広くなっており、夕方の時間帯の帰宅者が多くなっています。



※無回答を除く

図 46 外出先への外出時間と帰宅時間

(5) 外出頻度

外出頻度は、月に2,3回の割合が多い傾向があります。

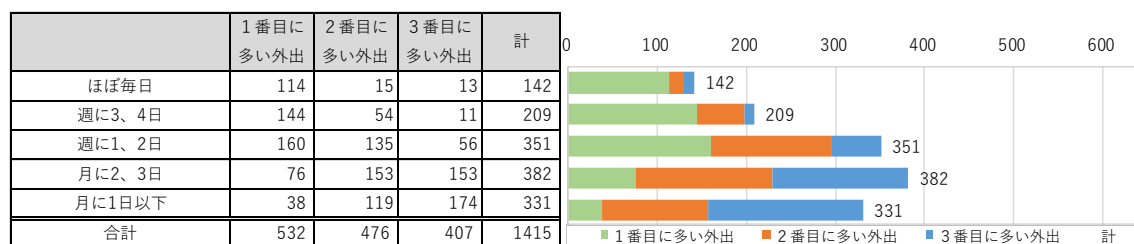


図 47 外出頻度

(6) 主な移動手段

主な移動手段は自家用車であり、自身による自家用車の運転で移動している傾向があります。

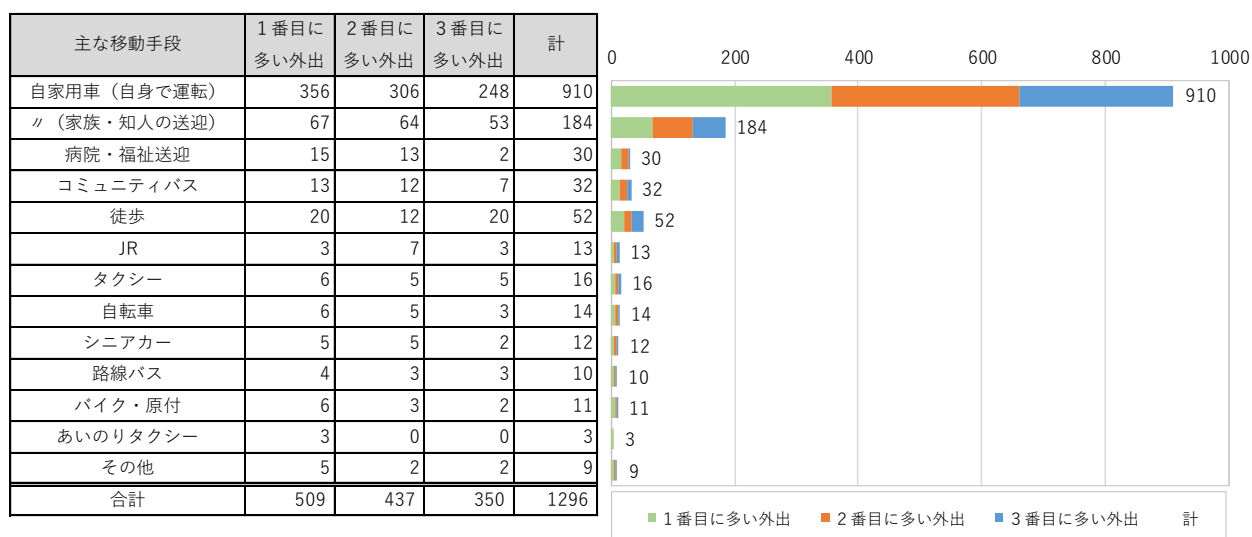


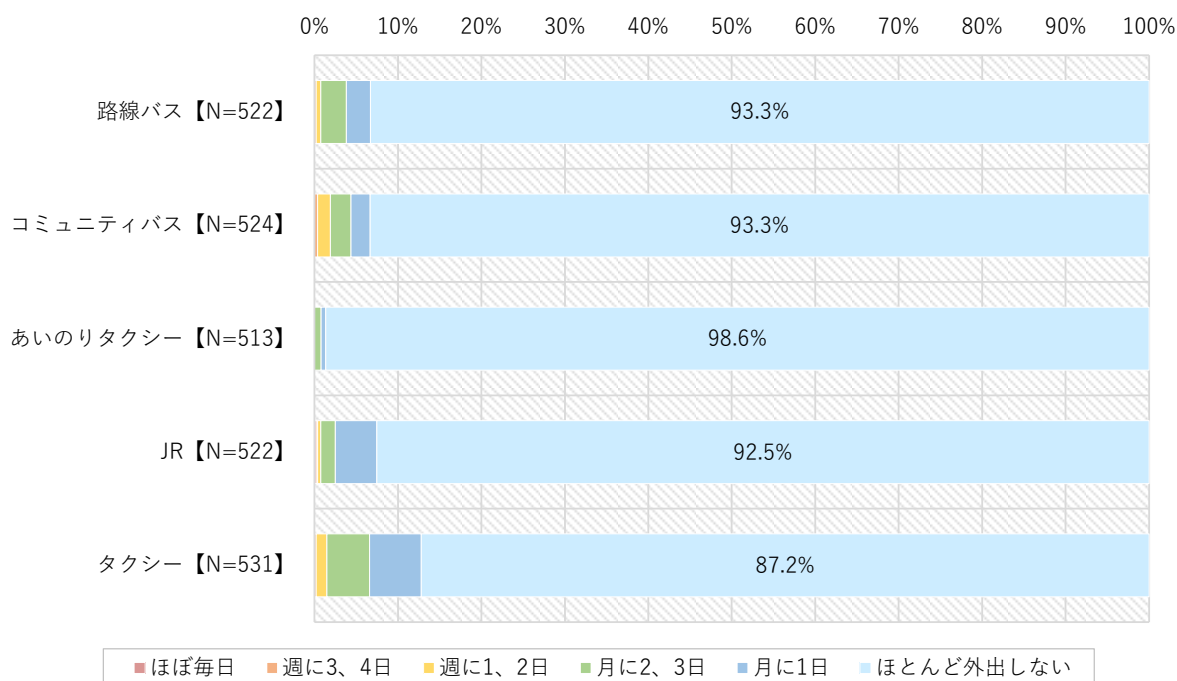
図 48 外出先への移動手段

6-1-3 公共交通の利用

(1) 日常生活における公共交通の利用頻度

8割以上の回答者が、各公共交通機関を「ほとんど利用しない」と回答しています。

利用割合が最も大きい公共交通はタクシーです。一方、最も利用割合が小さい公共交通はあいのりタクシーです。これは、運行区間が限定されていることが、利用割合が低い要因であると考えられます。

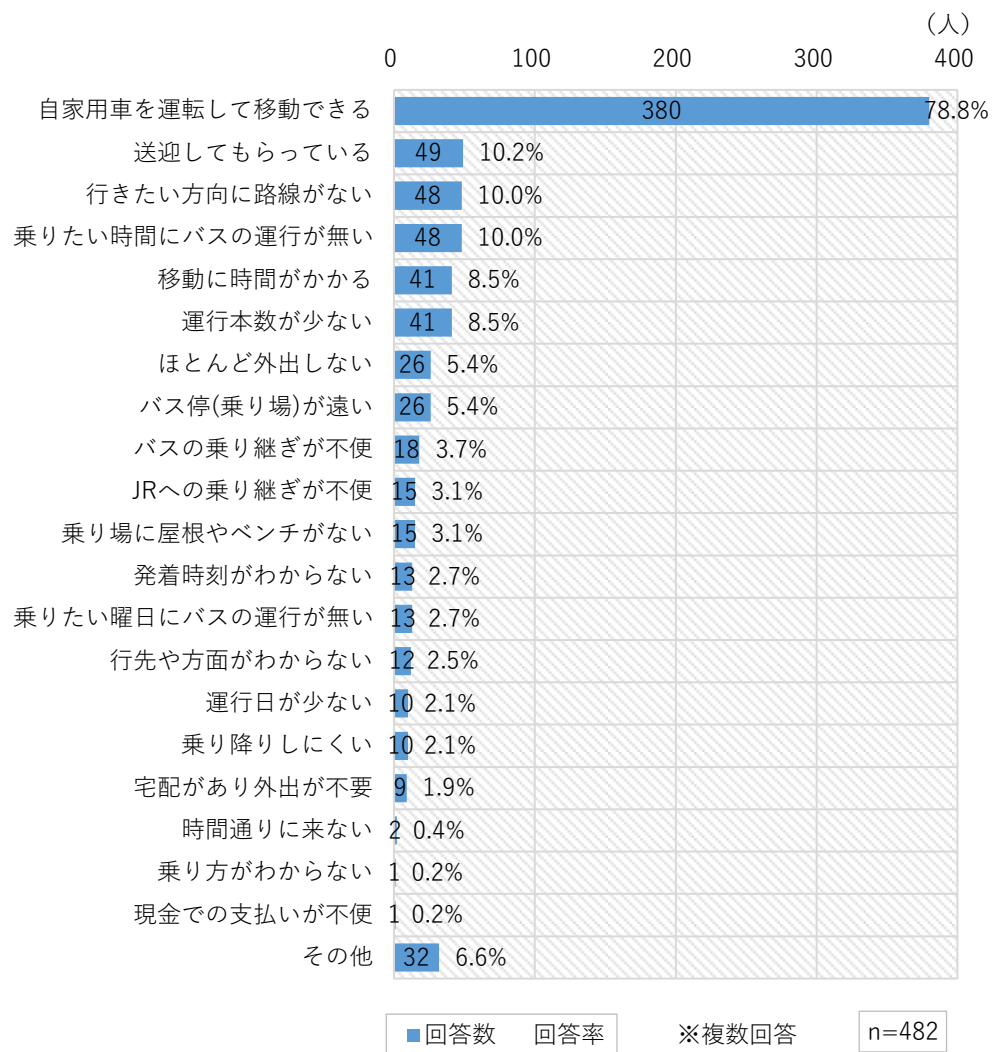


※無回答を除く

図 49 公共交通の利用頻度

(2) 日常生活において公共交通を利用しない理由

回答者の 7 割以上が「自家用車を運転して移動できる」ため、公共交通を利用しないと回答しています。また 2 番目に多い理由として、「送迎してもらっている」が挙げられることから、自家用車を用いた移動が主となっており、公共交通に対する不満も少ないことが考えられます。



※上記の選択肢より該当する内容を 3 つ選択
 ※無回答・4 つ以上選択した回答者を除く

図 50 公共交通への不満点・公共交通を利用しない理由

6-1-4 運行見直しを行う場合の市民の意向

最も行ってよい見直し内容として、過半数の住民が「運賃の増額」と回答しました。

一方、最も行ってほしくない内容として、「運行ルートの変更やバス停の廃止」・「直通から乗り換えへの変更」が挙げられ、それぞれ25%以上を占めています。

以上より、運賃の増額は仕方がないとしても、バスの現状のサービス水準は維持してほしいという声が多いと言えます。

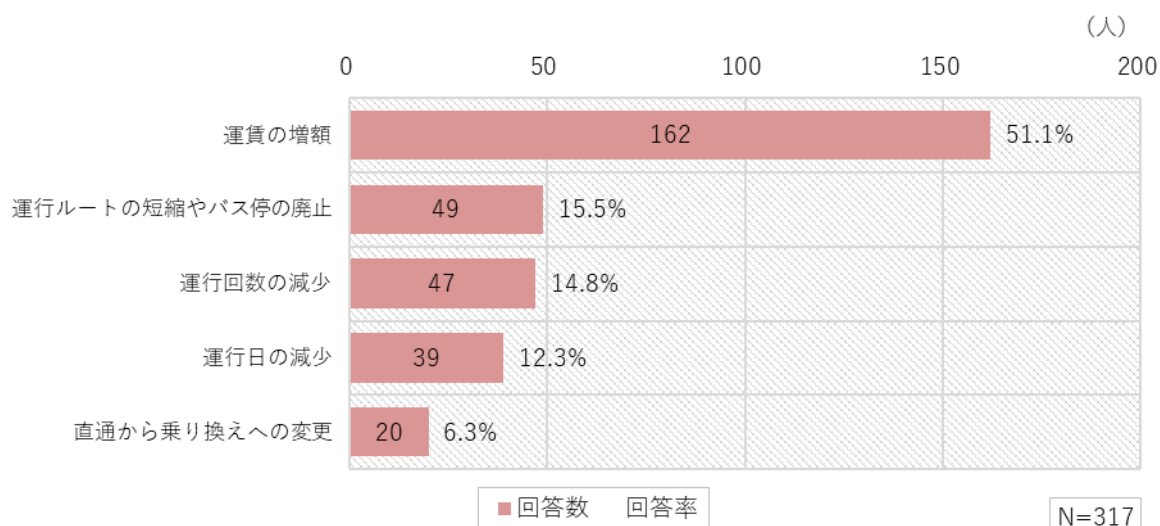


図 51 最も行ってよい見直し内容

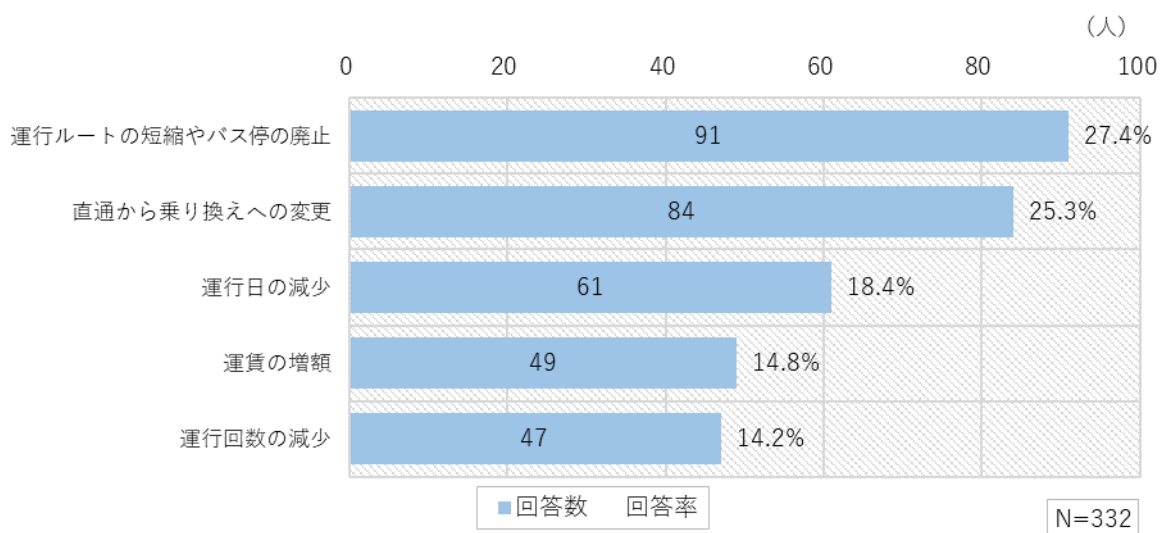


図 52 最も行ってほしくない見直し内容

6-2. 利用者満足度調査

豊後大野市地域内フィーダー系統確保維持計画に位置づけた定量的な事業の目標指標のひとつとして、コミュニティバス利用者に対して満足度の調査をバス車内で実施しています。令和3年度調査では53名の方から回答をいただきました。

6-2-1 回答者属性

(1) 年齢構成

アンケート回答者の平均年齢は78.2歳。回答数の多い年代は80歳以上が最も多く、最高齢は90歳でした。

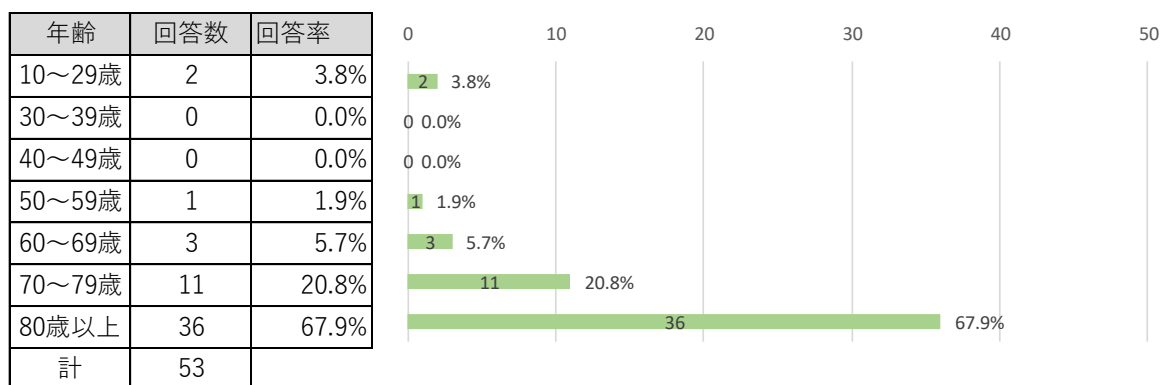


図 53 回答者年齢

(2) 運転免許証の有無

運転免許証をお持ちでない方の利用が約9割でした。

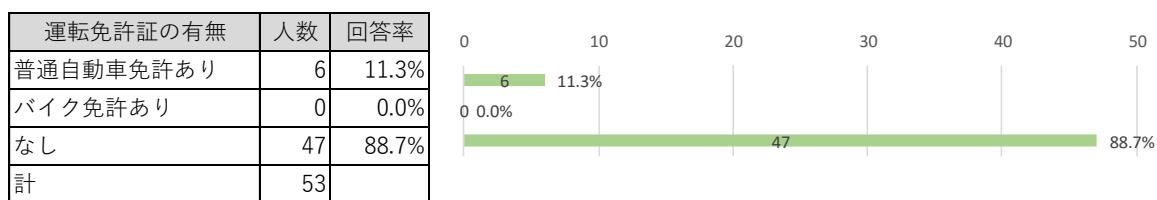


図 54 運転免許証の有無

6-2-2 外出目的について

(1) 主な外出目的

外出目的としては、買い物や通院といったものが多く上げられました。

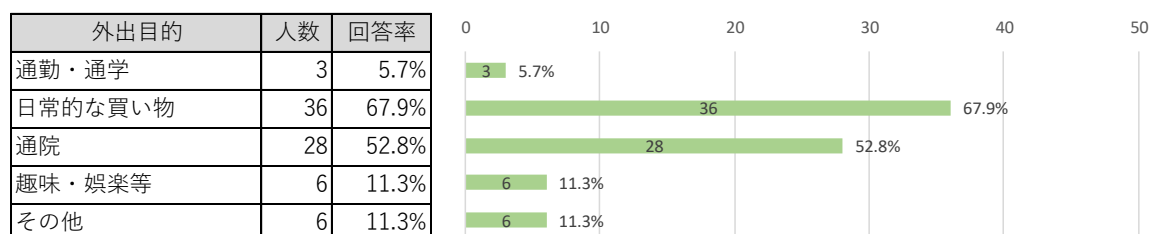


図 55 主な外出目的

(2) 外出頻度

外出頻度は、週に1回程度が多くなっています。

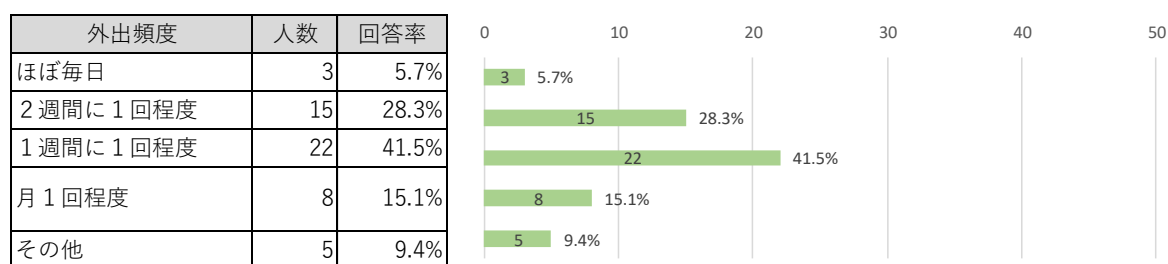


図 56 外出頻度

(3) 外出時間と帰宅時間

外出時間については、午前中に出かける方が多く、午前中のうちに帰宅する方が多くなっています。

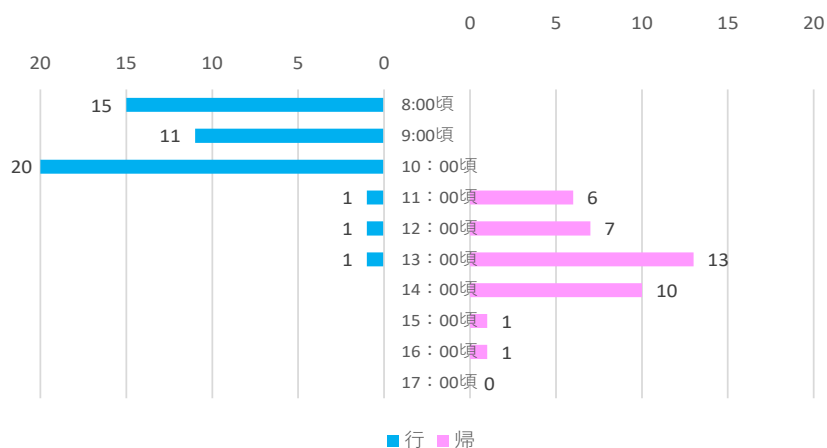


図 57 外出時間と帰宅時間

(4) コミュニティバスの利用満足度について

コミュニティバスの運行に対する設問に対し、「行きたいところに行ける」については、満足度が低いものの、その他の項目では「満足」「やや満足」と回答する人の割合が高くなっています。

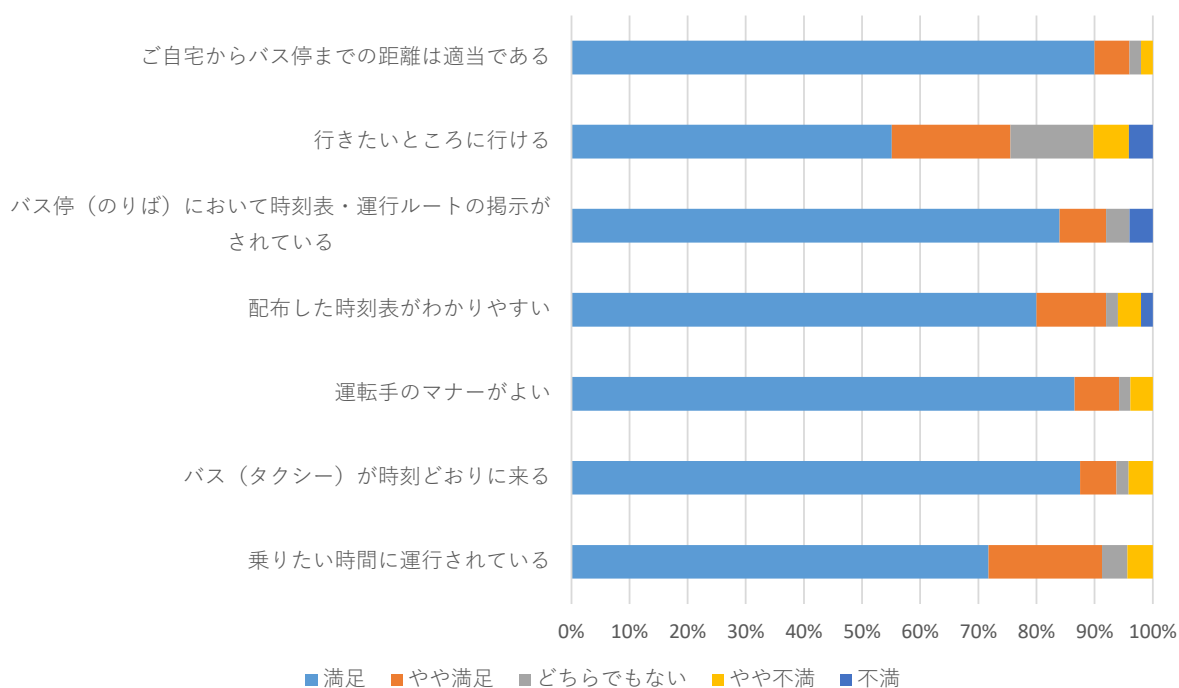


図 58 コミュニティバスの利用満足度

6-3. 高校生アンケート

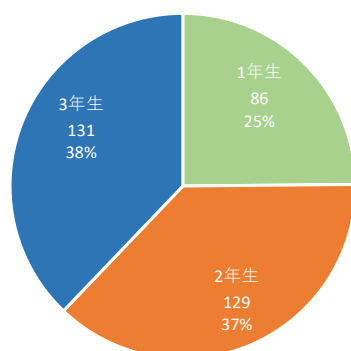
市内唯一の高校である県立三重総合高校とは平成 27 年から大分大学大井研究室と連携し、高齢者の公共交通の利用促進を目的に「大人の社会見学」事業を通じ公共交通利用促進に取り組んできました。令和 2 年度からは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、高齢者への取組みが行いにくくなることから、高校生の公共交通の利用促進を目的に調査研究を行っています。

今回は、三重総合高等学校に通う高校生に対して、通学時の移動手段に関するアンケート調査を行い、346 名の生徒の方から回答をいただきました。

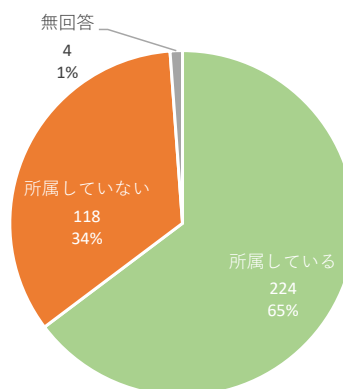
6-3-1 回答者属性

高校生アンケートの回答者属性を示します。

【学年】



【部活動の所属】



【居住地】

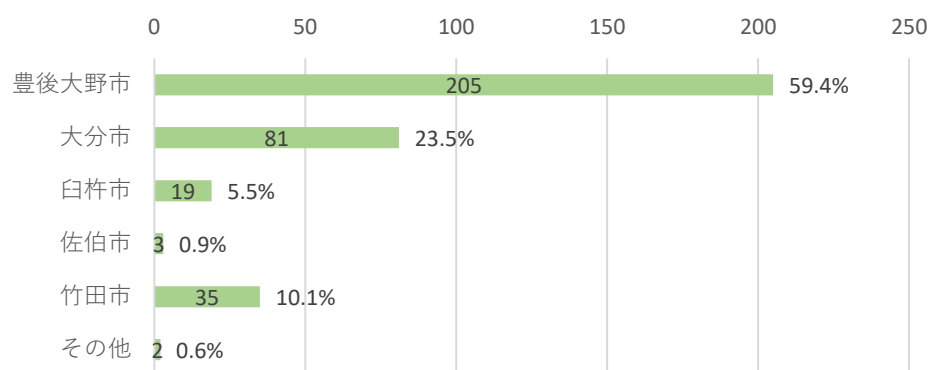
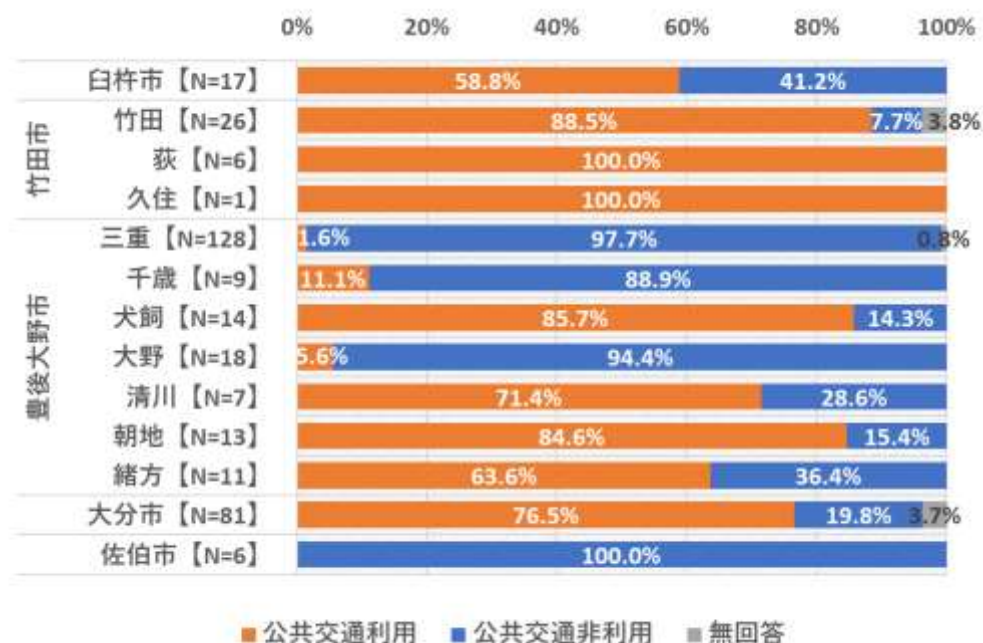


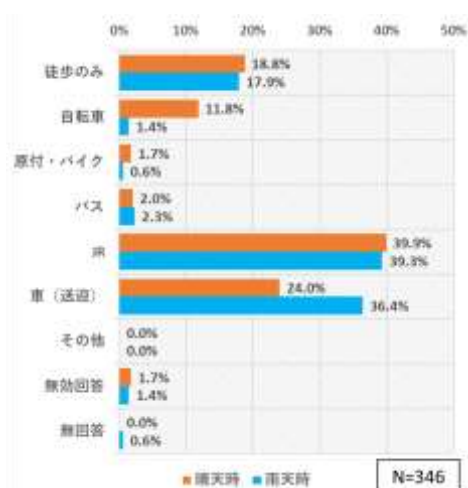
図 59 回答者属性

6-3-2 登下校時の移動手段

鉄道沿線に居住する高校生のほとんどが、公共交通を利用して登下校していますが、公共交通を使って通学できる交通手段が路線バスのみである白杵市、千歳町、大野町、佐伯市出身の高校生及び、三重町内の高校生は公共交通を使った通学を行っていません。



三重総合高等学校生の通学手段は、鉄道・車（送迎）・徒歩での移動が多いことが特徴として挙げられます。また、雨天時には、晴天時自転車移動する高校生が、移動手段を車（送迎）に転換する動きが見られます。



6-3-3 通学にバス（公共交通機関）を利用しない理由

通学に路線バスを利用する生徒が少ない理由として、「他の移動手段がある」と回答した高校生の割合が全体の約8割を占めており、バスよりも他の移動手段を優先する傾向です。利用を促すための改善策として「運賃を安くする」「登下校に合わせた運行」を望む意見が多く出されましたが、全体としては改善しても利用しない意見が多くなっています。

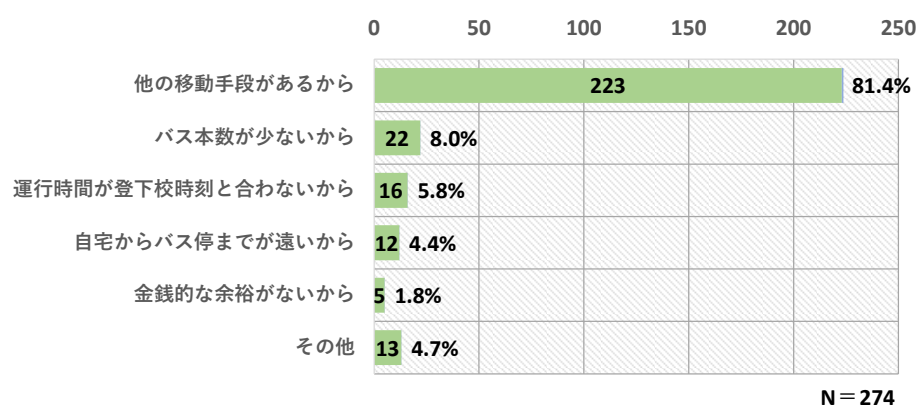


図 60 バス利用が少ない理由

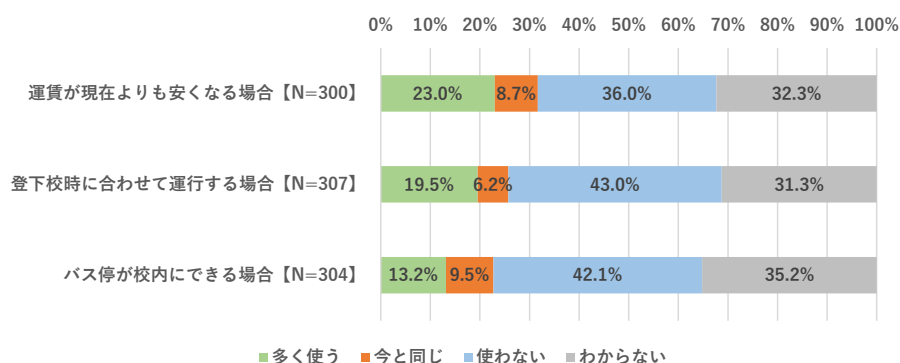


図 61 どうすればバスを利用するようになるか

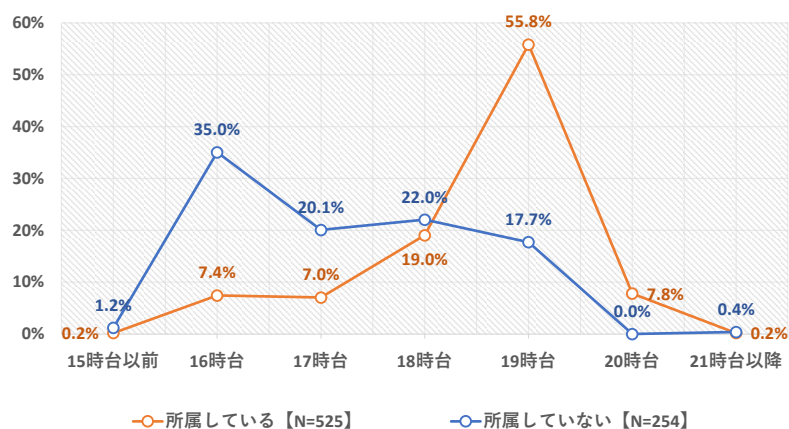


図 62 部活動所属の有無別下校時刻

6-4. 豊後大野市コミュニティバス運営協議会での検討結果

市コミュニティバス運営協議会とは、法定協議会である市地域公共交通活性化協議会とは違い、市民の代表が中心となってコミュニティバスの様々な諸問題に対して、調査、審議するための組織として、市が独自に設置したものです。

令和3年度は豊後大野市コミュニティバス運営協議会交通計画策定にあわせ、11月12日と12月17日の2日間、コミュニティバス運営協議会を開催しました。11月12日には、現状に対する課題について、1グループあたり3～4人配置した上で3グループに分かれ、議論を行いました。

委員の方には、事前に調査用のコミュニティバス期間限定乗り放題定期券を配布し、コミュニティバスに乗車した上で委員会に参加いただくようにしていましたが、ご自分の感想のほかに、知人やコミュニティバスの利用者、バス乗務員に対して、意見聴取を積極的に行っていただいたうえで会に参加していただいたおかげで、様々なご意見をいただくことができました。

第1回目の協議会には大分大学大井研究室の学生も参加し、同日開催された地域公共交通活性化協議会において報告を行っていただきました。

12月17日には、コミュニティバスの今後について意見のまとめを行ったところです。

豊後大野市コミバス運営協議会 グループワーク (11/12) 結果まとめ

コミバスの良い点・不満点

- <コミバスの良い点>
 - ・運転士や乗客同士でコミュニティができている
 - ・生活に便利（通院、買い物など）
- <コミバスの不満点>
 - ①新しい利用者が増えない（固定客）
 - ※免許を保有し続けている
- <コミバスの不満点>
 - ②他のサービスとの比較、便利なサービスに慣れすぎ（送迎はドアトゥドアで無料）
 - バス停まで歩くのが大変
- <コミバスの不満点>
 - ③情報提供の不足、うまく伝わっていない
 - 乗り方が分からない
- <コミバスの不満点>
 - ④バス停が分かりにくい、ベンチ・屋根がない
- <コミバスの不満点>
 - ⑤時間的な制約（決まったダイヤ、ルートが時間がかかるなど）

今後の方向性・提案

- <提案①>
 - ・グループでバスツアー企画（ちょっとしたイベント+買い物など）
 - みんなに利用してもらえるような企画
- <提案②>
 - ・バス停まで歩く習慣づくり（健康のため）
 - ※「送迎のみ」と「公共交通+徒歩」での移動の差（脳の働きへの影響など、学術的な研究成果）
- <提案③>
 - ・情報提供（シニア向けにはCATVの活用など）
 - ・紙（広報紙、チラシ等）による情報提供だけでなく
 - 口コミ（民生委員や近所の知り合い等）の活用等
- <提案④>
 - ・分かりやすく使いやすいバス停（「地域でバス路線（バス停）を守る」）
- <提案⑤>
 - ・ダイヤやルートでの工夫
 - 公共交通は車と比べると不便という認識
 - 公共交通に合わせた生活スタイル（年1回でも）

図 63 結果まとめ及び今後の方針・提案事項（11/12）

豊後大野市第2回コミバス運営協議会（12/17）意見とまとめ

委員からの意見等

<意見①>

・コミバスは現在では利用していないが、なくなると困るので、千歳の老人会では、コミバスのことを調べたり、乗ってみる企画を進めている

<意見②>

・免許返納したら、すぐ施設に入る人が多いのでは
・土日はコミバスの運行がないので、土日のイベントにコミバスだけで行くことはできない

<意見③>

・コミバスに乗りたくても、乗り方が分からない人がいる（三重町中心部の方）

<意見④>

・大野では、コミバスでも路線バスでも、帰りのダイヤがうまく合わないことが多い
・イベントのスケジュールとバスのダイヤが合っていない

<意見⑤>

・緒方のコミバスは全て緒方駅を通るが、駅前が渋滞するので、間引きなどできないか
・施設に入るのもお金がかかるので、「コミバスで元気に」という施策も考えられないか

<意見⑥>

・コミバス以外の輸送手段についても考えた方がいいのではないか（住民主体の互助輸送など）

まとめ・今後の方向性

<意見①への対応>

・地域でグループ単位でバスツアー企画など
是非進めていただきたい（行政も協力・支援）

<意見②への対応>

・コミバスは地域内の移動、JRや路線バスは地域間の移動を担う（役割分担）。土日の要望は多いが需要は少ない。コミバス以外の制度が必要では。

<意見③への対応>

・バス停を分かりやすくしたり、乗り方教室や体験乗車の機会を設けるなど、地道な利用促進策の継続

<意見④への対応>

・生活行動をバスのダイヤに合わせる、という考え方
・イベントのスケジュールをバスのダイヤに合わせる

<意見⑤への対応>

・JR駅への接続は国庫補助の要件のため必要
・免許返納前の元気なうちから、コミバスに乗って健康になろう、という動き（大野公民館）

<意見⑥への対応>

・地域に交通事業者がいる場合は、まず事業者に相談（安全面、持続性）
・地域にとって一番いい交通のあり方を、住民・事業者・行政が一緒になって考えていく

図 64 委員意見及び今後の方向性（12/17）

令和3年度 コミュニティバス運営協議会 意見のまとめ

豊後大野市コミュニティバス運営協議会では、委員の皆さんが、コミュニティバス車内にてヒアリング調査や身近な方に聞き取りを行うなどして、コミュニティバスの今後について意見をまとめました。

※調査期間：令和3年10月13日～12月17日まで

※協議会：2回開催（11月12日、12月17日）

※参加者：コミュニティバス運営協議会委員

大分大学大井ゼミ学生、日本工営株式会社



・「ちょうどいい」を目指す

→ 自分にとってちょうどいい → 自家用車
→ みんなで利用するのにちょうどいい交通 → 公共交通

市民が取り組むこと

・キーワード「支え合い」

コミュニティバスにみんなで乗って公共交通を支える
地域内での移動の支え合い・助け合い

地域公共交通を
守っていくことにつながる



図 65 令和3年度コミュニティバス運営協議会の意見のまとめ